

日本旧石器学会

ニュースレター 第51号  
NEWS LETTER No. 51

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



## 日本旧石器学会第20回大会の開催（報告）

2022年度日本旧石器学会第20回大会が、2022年6月4日・5日に名古屋大学東山キャンパスで開催された。以下に概要を報告する。

### 総会

6月4日13:30から総会が行われた。開催にあたり佐藤宏之会長から挨拶があり、2年ぶりの待望の対面大会について喜びが語られ、大会開催に尽力した関係者へ感謝が述べられた。

その後、事務局からの推薦により加藤真二会員が議長に選出された。議事は各委員会から2021年度活動報告及び2022年度活動計画の報告が行われた。質問・要望事項について審議した後、採決により承認を得た。各委員会の報告・審議事項は本誌に掲載しているとおりである。続いて2021年度旧石器学会賞の受賞者の発表と授賞式が行われた。学会賞は島田和高会員、論文賞は中村雄紀会員にそれぞれ贈呈された。

### 一般研究発表

総会に続いて一般発表が行われた。伊藤 健、橋詰 潤、加藤真二、戸塚瞬翼、村瀬早紀、青木要祐ほかの各氏（連名発表は筆頭発表者名のみ記載）から、総計6本の発表が行われ、質疑応答が行われた。

### ポスターセッション

ポスターセッションは6月5日に行われ、コアタイムが同日12:30から13:30に設けられた。戸塚瞬翼ほか、廣瀬允人ほか、上峯篤史、野口淳、中村由克ほか、神取龍生ほか、鈴木美保ほか、岩瀬 彬ほかの各氏（連名発表は筆頭発表者名のみ記載）から、総計8本の発表が行われた。それぞれの発表箇所に次々と聴衆が訪れる盛況で、新型コロナウイルスの感染に注意しながら、熱心な質疑応答が行われていた。

『更新世末の西南日本における環境変動と人類活動』

シンポジウムは6月5日に開催された。最初に

研究企画委員会の高倉 純委員から趣旨説明があり、続いて基調報告が行われた。まず、高原 光氏が「更新世末の西南日本における植生環境の変化」と題して旧石器時代の気候変動に伴う西南日本における植生の変化について主に花粉分析に基づき報告した。続いて、最終氷期最盛期（LGM）直前の段階から完新世の開始までの西南日本各地方における人類活動の様相が4人から報告された。長井謙治氏は「中部地方（東海西部）—愛知県萩平遺跡の再調査—」と題して、氏自身が発掘を行っている遺跡の調査成果を報告し、今後の課題について発表した。光石鳴巳氏は「近畿地方」について、当該地方の資料の特質・制約等に触れ、ナイフ形石器文化期、細石刃石器文化期、縄文時代草創期それぞれについて石器群の変遷を論じた。三好元樹氏は「中四国地方」について、対象石器群の検討を経て、他地方の編年を考慮して段階を設定し、各段階の年代を示して気候変動と対比した。芝康次郎氏は「九州地方」について、北部・中部・南部の様相を整理して10期区分を示し、特にLGMとその前後及び晩氷期に焦点を当て、遺跡数の増減についても言及しながら、環境変動と人類活動との関係について発表した。

パネルディスカッションでは、研究企画委員の司会により更新世の西南日本における環境変動と人類活動との関係について、研究の現状等を整理し今後の展望が議論された。各発表者がそれぞれの報告内容を補いつつ、LGMの期間について、西南日本に見られる石器群の広域変動について、地域ごとの遺跡数の増減の背景等について発言し、それぞれの地方における文化編年と古環境との対応について討論が行われた。

（ニュースレター委員 赤井文人）

## 2021 年度委員会報告

2022年6月4日(土)に日本旧石器学会総会が開催されました。2021年度の活動について各委員会から報告が行われ、審議の後に承認されました。内容につきましては以下のとおりです。

### 総務委員会

#### 1. 会員情報の管理

- ・新入会員の入会・住所変更等に関する事務：2021年度新入会員5名、退会者は3名で、2022年4月1日現在での会員数は会費長期滞納により権利を停止している会員を除き230名である。

#### 2. 役員会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整

- ・2022年5月13日(日) ZoomによるWeb会議

#### 3. 総会・研究発表・シンポジウム開催に関する意見交換・連絡調整・資料の作成

- ・新型コロナウイルス感染拡大を受け、2021年度研究発表・シンポジウムはオンライン開催とした。
- ・メール上での臨時役員会での審議の結果、2022年度総会・研究発表・シンポジウムについては名古屋大学での対面開催を目指すことを決定した。

#### 4. 会務に関する連絡・調整、各委員会間の連絡・調整

#### 5. 会誌(「旧石器研究」第18号)、ニュースレター

- (第48・49・50号)、各種学会連絡文書の発送
- ・会誌発送：2022年5月末
- ・ニュースレター：2021年9月第48号、2021年12月第49号、2022年4月第50号
- ・それ以外に適宜要望に応じて発送を行なった。

#### 6. 日本考古学協会総会図書交換会等におけるシンポジウム予稿集及び会誌「旧石器研究」の頒布

- ・日本考古学協会での図書交換会中止をうけ、同会における頒布は中止とした。

#### 7. 研究グループ支援制度に関する事務

- ・研究グループ継続申請への対応  
「郡家今城遺跡の再整理」(研究代表者 鈴木忠司)  
「旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ」(研究代表者 堤 隆)
- ・「旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ」については、年度途中で事業中止の申し出があり、役員会において了承された。
- ・「郡家今城遺跡の再整理」については、2021年度活動報告をニュースレター第50号に掲載した。

#### 8. 日本旧石器学会賞

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年度総会における2020年度学会賞・論文賞、2021年度若手奨励賞の授賞式はオンライン

で実施され、賞の授受は郵送等により行われた。

- ・2021年度の学会賞、論文賞選考に係る事務を行った。

#### 9. メーリングリストに関すること

- ・郵送費の削減や会員への連絡の事務作業量の軽減のため、メーリングリストを運用しているが、新型コロナウイルス感染拡大の中、メーリングリストの更なる有効活用と登録率の向上を図る必要であり、2021年度に役員会での議論と了承のもと、メーリングリストへの登録を原則、義務化した。その結果、現在の登録人数は125名となった。

#### 10. 共催・資料提供等について

- ・2021年度内に実施される事業に関しては、共催等の要望はなかった。

### 会計委員会

#### 1. 2021年度の活動実績について

(1) 役員会、総会・研究発表・シンポジウム、日本考古学協会図書交換会時

- ・会費・学会刊行物頒布代金の徴収(総務委員会と協同)及び収入の学会口座への預入

- ・各委員会立替金、仮払金等の現金支出

※以上の2項目は、各種行事がオンライン開催または開催中止のため活動実績なし

- ・日本旧石器学会賞(若手奨励賞)副賞の現金支出(7/9 東北大学)

#### (2) 通年

- ・会費納入状況管理、会費納入・住所変更等の総務委員会への報告、刊行物頒布等収入の管理

- ・シンポジウム登壇者、普及講演会講師及び会議・普及講演会・データベースワークショップに出席した役員の交通費補助額の算定・支払

※各種行事がオンライン開催のため活動実績なし

- ・刊行物(会誌17号、ニュースレター47・48・49号)印刷・発送費支払

- ・HP管理・メーリングリスト構築運用委託費の支払
- ・APA日本大会経費積立金の口座管理(積立金入金・支払等)

- ・役員選挙実施に伴う経費及び研究グループ運営経費の支出

- ・その他、学会出納口座の管理

#### 2. 2021年度決算について

(1) 一般会計(表1参照): 収入は予算額を132,800円上回った。会費納入については、滞納分の納入が進んだことにより予算額をわずかに下回る程度にとどまった。会誌頒布がコロナ禍以前の水準近くまで戻ったことにより、予算額を上回ることと

なった。支出は予算枠内で執行された費目もあったが、4つの費目で支出増となったため、予算を66,989円上回った(予備費を除く)。なお、すべての行事がオンライン開催となったため、旅費交通費の支出は発生しなかった。

【通信運搬費支出増の原因】役員選挙実施のため、選挙のなかった前年より発送費が増加した。

【印刷製本費支出増の原因】会誌のカラー印刷のため、印刷費が増加した(著者負担のため収入と相殺)。

## (2)特別会計(表2参照)

所定の150,000円を積み立て、930,000円を2022年度に繰り越した。

## (3)会計監査

2022年5月20日に、会計監査委員から監査を受け、2021年度会計が適正に行われている旨の報告をうけた。

## 会誌委員会

### 1. 会誌「旧石器研究」第18号の編集

ニュースレターなどにおいて、投稿募集を積極的に行った結果、十分な数の投稿を得ることができた。投稿原稿の確認や査読、編集の作業を委員会で行い、下記の論考を掲載した。総説1本、論文5本、研究ノート3本、書評1本、大会報告1本。

・総説:鈴木 仁「第四紀後期のユーラシアを舞台とする小型哺乳類の進化的動態と人類拡散との関わり」

・論文:山田 哲「日本列島域における細石刃石器群の成立—特に稜柱系細石刃石器群の生成と特性について—」, 熊谷亮介「旧石器時代研究における「機能形態学」に向けて—石刃石器群の幾何学的形態測定学に基づく考察—」, 出穂雅実・國木田大・斎野裕彦・平塚幸人・中沢祐一・大谷 薫・廣松滉一・百原 新・高原 光・松崎浩之「仙台市富沢遺跡27層コンポーネントの年代決定:古本州島北部における最終氷期最盛期の石器群の年代と古サハリン—北海道—千島半島との関連」, 森先一貴・芝康次郎・角縁 進・隅田祥光「石の本遺跡にみる行動的現代性—波長分散型蛍光X線分析による黒曜石産地推定研究—」, 岩瀬 彬・尾田識好・森先一貴・市田直一郎・國木田大・山崎 健・佐藤宏之「前田耕地遺跡の尖頭器の形態と巨視的破損痕跡:第17号住居跡の利用をめぐる新たなエピソード」

・研究ノート:国武貞克・須藤隆司・中村由克「香坂山遺跡の立地と遺跡構造」, 出穂雅実・戸塚瞬

翼・國木田大・麻柄一志・佐野勝宏「富山県富山市直坂II遺跡第1・9ユニット出土石器群とAMS年代」, 及川 穰・小林謙一・遠部 慎・米田 穰・尾寄大真・大森貴之・小林克也・小嶋善邦・灘 友佳「中国山地における後期旧石器時代前中期遺跡の年代学的研究—出土炭化材の樹種同定と放射性炭素年代測定—」

・書評:山田 哲「岩瀬 彬 著『最終氷期最盛期の石器使用痕研究』同成社」

・大会報告:青木要祐「日本旧石器学会 第19回研究発表・シンポジウム「北海道の旧石器時代と集団」」

## 2. 投稿規程と執筆要項の改定

会誌「旧石器研究」の投稿や査読、校正は、現在、原稿のデジタルファイルのやりとりで行われている。その実情に合わせて、投稿規程と執筆要綱の一部改定を役員会に提案し承認された。

## ニュースレター委員会

2021年度はニュースレター第48号, 第49号, 第50号の編集・発行を行った。主な内容は以下のとおり。

【第48号】2021年9月13日刊行(10頁): 2021年度第19回大会の開催(報告), 2020年度委員会報告, 2021年度活動計画, 2020年度日本旧石器学会賞受賞者の発表, 2021年度学会賞の推薦募集, 2021年度旧石器学会役員会, 普及講演会のお知らせ, 『旧石器研究』投稿募集の案内, お知らせ

【第49号】2021年12月20日刊行(8頁): アメリカ南西部ニューメキシコ州で発見された更新世の足跡, 2020年度日本旧石器学会賞受賞者報告, 2021年度普及講演会報告, データベースワークショップの報告, 2022年度 第20回大会一般研究発表・ポスター発表の募集, 役員選挙公報・2021年度学会賞の推薦について, お知らせ

【第50号】2022年4月28日刊行(8頁): 名古屋大学博物館収蔵のアフリカおよび西アジア旧石器資料, 2022年度 第20回大会・研究発表・シンポジウムの案内, 日本旧石器学会役員選挙結果のお知らせ, 研究グループ2021年度活動報告, 関連学会・出版情報, お知らせ

## 渉外委員会

### 1. アジア旧石器協会 (APA) に関して

#### (1)第10回アジア旧石器協会中国大会

・昨年度延期された第10回APA中国大会は、2021年12月3日~5日に河南省鄭州市の本会場と国外参加者をオンラインで結ぶハイブリッド方式で実

表1 日本旧石器学会 2021年度一般会計決算 単位:円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会費収入				
会費収入	1,356,000	1,348,000	△ 8,000	延べ 225 人・年(※1,000 円不足) 【内訳】17 年度 1 人, 18 年度 3 人, 19 年度 9 人, 20 年 度 34 人, 21 年度 170 人, 22 年度以降 8 人
その他の収入				
会誌頒布代金	140,000	201,600	61,600	最新刊(17号)33冊, バックナンバー30冊
シンポジウム予稿集頒布代金	21,000	10,800	△ 10,200	2021年度は無償(PDF), バックナンバー9冊
その他収入	0	89,400	89,400	会誌カラー印刷(著者負担), 研究グループ交付金返 金(1件)
前期繰越収支差額	2,079,391	2,079,391	0	
収入 計	3,596,391	3,729,191	132,800	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	134,000	122,100	△ 11,900	オンライン会議システム使用料(3件), 総会・シンポジ ウム運営補助
旅費交通費	42,000	0	△ 42,000	各種事業すべてがオンライン開催のため不用
通信運搬費	35,000	122,597	87,597	会誌, 役員選挙公報・投票用紙送料等
消耗品費	3,000	803	△ 2,197	払込取扱票
印刷製本費	1,013,000	1,069,377	56,377	会誌, シンポ予稿集編集, ニュースレター3件
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	66,000	0	HP 管理・メールリスト構築運用
次回 APA 日本大会経費積立	150,000	150,000	0	
研究グループ運営経費	60,000	30,000	△ 30,000	1 件
日本旧石器学会賞関連経費	36,000	36,644	644	賞状製作, 若手奨励賞(副賞あり)
雑費	27,000	34,290	7,290	会費返金(1件), 郵便振替・振込手数料
予備費	2,030,391	2,097,380	66,989	※次年度へ繰越
支出 計	3,596,391	3,729,191	132,800	

※単年度収支

費 目	予算額	決算額	増 減
前期繰越金を除く収入	1,517,000	1,649,800	132,800
予備費を除く支出	1,566,000	1,631,811	65,811
収支差額	△ 49,000	17,989	

表2 日本旧石器学会 2021年度特別会計(APA日本大会開催経費積立) 決算 単位:円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	0	次回 APA 日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	780,000	780,000	0	
収入 計(①)	930,000	930,000	0	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
APA 日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出 計(②)	0	0	0	
次期繰越金(①-②)	930,000	930,000	0	

施された。

- ・日本からは、15名がオンラインで参加し、口頭発表は4本であった。

#### (2)2021年度アジア旧石器協会執行委員会

・第10回大会に伴い、2021年度アジア旧石器協会オンライン執行委員会が企画されたが、韓国側役員との連絡がつかず、結果的に電子メール会議方式に変更された。

- ・メール会議における報告事項

次回の第11回APA韓国大会は、2023年8月に開催の予定であることが報告され、APA次期会長には、次回大会開催国で韓国旧石器学会会長のHeonjong Lee教授（木浦大学校）が全会一致で選出され、就任した。また過年度からの検討継続課題である新期加盟国への連絡は、今年度には実施されず、次期APA会長に引き継ぎが行われたが、2021年度執行委員会は一部未了で実施され、次年度執行委員会に引き継がれた。

#### (3)A.P.デレビャンコ傘寿記念シンポジウムへのAPA協力依頼

・2023年1月11～12日に開催予定である「A.P.デレビャンコ傘寿記念シンポジウム」の案内が、ロシア科学アカデミーシベリア支部のアリーナ・ハツェノヴィッチ博士からAPA執行役員宛に送付された。

・同シンポジウムの主催はロシアであるが、APA各加盟国に開催許可を要請してきたため、JPRA会長、副会長、総務委員長、渉外委員会の実務者間で協議し、「シンポジウムの企画運営にAPAが義務を負わないこと」を前提に開催を承諾した。

#### 2. 海外でのシンポジウム等の情報提供

2021年度は新型コロナの影響で、海外における主要な国際学会・シンポジウムが中止もしくはオンライン開催となったため、会員への情報提供は実施しなかった。

#### 研究企画委員会

第19回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムを下記の通り開催した。

- ・日程：2021年6月19日（土）～20日（日）
- ・実施方法：Zoomを用いたオンライン形式
- ・シンポジウム「北海道の旧石器時代と集団」発表5本（趣旨説明除く）
- ・一般研究発表：口頭11本（1本20分）、ポスター発表はなし

#### データベース委員会

##### 1. 更新・改訂作業

###### (1)基本方針

・「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを“最新のデータにもとづき、より使いやすく、維持管理の容易なデータベースを目指す。”

・2010年版以降の新データと欠落データの追加・補足、収録情報の確認、とくに位置情報の高精度化を進める。

・文献書誌情報の外部データベースと紐づけする（奈文研「遺跡総覧」ほか）。

#### (2)「旧石器遺跡マッピングパーティー」更新作業ハンズオン・ワークショップ（WS）

・2021年6月27日に群馬県（参加者11名）、2022年4月23日に新潟県（参加者12名）を対象にオンラインで開催した。

#### 2. 更新・改訂版の公開準

・学会ホームページ上に更新・改訂版の公開ページを設置し、更新・改訂が終了した秋田県、宮城県、奈良県の更新データを公開した。

#### 入会資格審査委員会

2021年4月1日から2022年3月31日の2021年度期間中に以下の9名から入会申し込みがあり、その資格審査を厳正に行い、会長に結果を報告した。

- ・村井 大海（ムライ ヒロミ 2021年4月7日入会申込、4月29日資格審査結果報告）
- ・須賀 永帰（スガ エイキ 2021年6月8日入会申込、6月9日資格審査結果報告）
- ・梅川 隆寛（ウメカワ タカヒロ 2021年6月9日入会申込、6月10日資格審査結果報告）
- ・尾崎 沙羅（オザキ サラ 2021年9月24日入会申込、9月25日資格審査結果報告）
- ・神取 龍生（カンドリ リュウセイ 2021年10月28日入会申込、10月29日資格審査結果報告）
- ・平井 義敏（ヒライ ヨシトシ 2021年11月26日入会申込、11月27日資格審査結果報告）
- ・松野 健治（マツノ ケンジ 2022年2月24日入会申込、3月2日資格審査結果報告）
- ・宇井 義典（ウイ ヨシノリ 2022年3月9日入会申込、3月10日資格審査結果報告）
- ・村瀬 早紀（ムラセ サキ 2022年3月9日入会申込、3月10日資格審査結果報告）

#### 広報委員会

1. 普及講演会をオンラインで開催し、旧石器時代研究の最新動向を紹介するとともに、日本旧石器学会について周知する機会を設けた。

「日本旧石器時代研究の現在（いま）－旧石器捏造発覚から20年－」

- ・第1回 9月25日（土）13：30～15：30

講師：小野 昭（東京都立大学名誉教授、前日

本旧石器学会会長)

「旧石器捏造事件を契機とした問題意識と体制の改革ー過誤に学ぶー」

- ・第2回 10月23日(土) 13:30~15:30  
講師:佐藤宏之(東京大学教授, 日本旧石器学会会長)

「日本列島後期旧石器時代の成立に関する展望」

2. 旧石器時代に対する理解を促進するため, 「日本列島の旧石器時代遺跡」のコンテンツを追加した。

富山県立美遺跡(麻柄氏), 静岡県土手上遺跡(山岡氏), 愛知県川向東貝津遺跡(田中氏)

3. データベース『日本列島の旧石器時代遺跡』の改訂版を更新した(宮城県・秋田県・奈良県)。

4. ホームページ等において, 旧石器学会, 講演会, 共催事業, 関連学会等の情報を提供した。

(1)ホームページ更新

- ・5月29日「日本旧石器学会 2021 年度総会・研究発表・シンポジウム参加登録」の掲載
- ・6月2日「2021年度日本旧石器学会第19回総会・研究発表・シンポジウム」プログラム, 「第10回

アジア旧石器協会中国大会(APA) 1st Circular」, 「学会誌の執筆要項の改定」を掲載

- ・9月22日「2021年度普及講演会「日本旧石器時代研究の現在ー旧石器捏造発覚から20年ー」」の掲載
- ・9月30日「ニュースレター第48号」の掲載
- ・10月17日「パレオアジア文化史学総括講演会「アジアの新人文化はどのように形成されたか?」」の掲載
- ・1月17日「ニュースレター第49号」の掲載
- ・3月9日「日本旧石器学会2022年度一般研究発表の募集案内」の掲載
- ・5月16日 「ニュースレター第50号」, 「2022年度日本旧石器学会第20回総会・研究発表・シンポジウム」プログラムの掲載
- (2)メーリングリストによる情報提供(随時)
- (3)HP掲載写真等の転載に係ること(随時)
- 5. ホームページのコンテンツの内容や構成等の充実・改善を図るために, 閲覧ページの内容と数, 訪問者数を集計した(図1, 表3・4参照)。

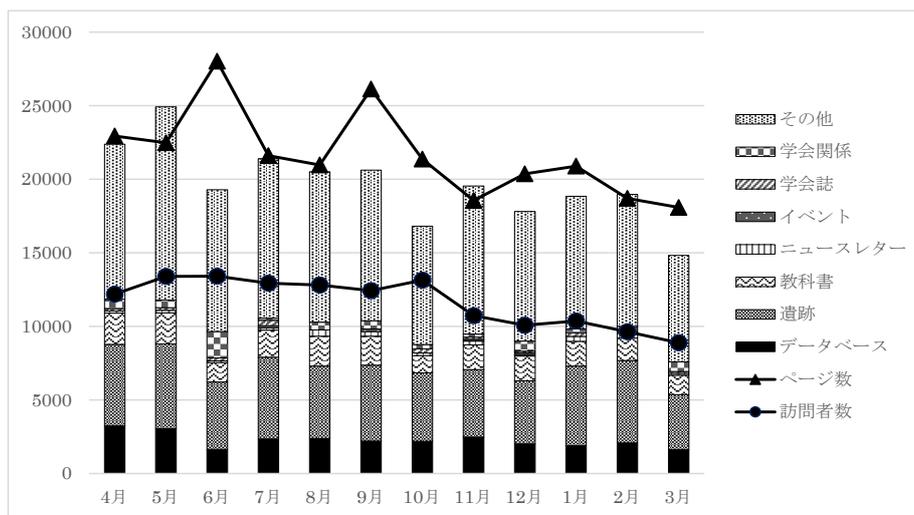


図1 2021 年度 HP アクセスデータ(ヒット数は Top30 を集計)

表3 ページ数と訪問者の月平均

	ページ数	訪問者
2021 年度	21679	11671
参考: 2019 年度	19004	8512

表4 ヒット数の月平均

	DB	遺跡	教科書	NL	イベント	学会誌	学会関係	その他
2021 年度	2262	4984	1704	223	142	194	548	9733
参考: 2019 年度	9904	3245	1190	489	253	178	493	7859

## 2022 年度活動計画

2022年6月4日(土)日本旧石器学会総会が開催されました。2022年度の活動計画案について各委員会から報告が行われ, 審議の後に承認されました。内容につきましては以下の通りです。

### 総務委員会

以下の項目に取り組み, それ以外は経常的な会

務に取り組む。

1. 総会・研究発表・シンポジウムの準備・連絡調整
- ・2023年度の総会・研究発表・シンポジウムは, 2023年6月に, 首都圏で実施する予定であり, 会場については東京都埋蔵文化財センターと協議中である。
- ・新型コロナウイルスの感染再拡大を見据えながら, 現状では対面開催での実施を検討。

## 2. 日本旧石器学会賞の選考

工程 2022年9月 ニュースレター第51号で「学会賞推薦」の告知

2023年3月頃 学会賞選考委員会を開催し、推薦をもとに受賞者候補を決定

2023年5月 日本考古学協会総会時の役員会で決定

2023年6月 日本旧石器学会総会にて授賞式

## 3. 研究グループ

2023年度の研究グループ公募をニュースレター第51号にて行う。

## 会計委員会

### 1. 一般会計(表5参照)

・前年度執行額をベースに予算編成及び執行を行う。ただし、オンライン開催から対面方式による開催へと変更する行事については、コロナ禍前の執行額をベースに予算編成及び執行を行うこととする。役員会、総会・研究発表・シンポジウム、普及講演会、ワークショップ等の開催に係る経費については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から執行のあり方を協議し、機動的かつ適正な執行に努める。

・会員に対する刊行物の配付経費等、その他の経費についても、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から適正な執行に努める。

・予備費の適正な活用によりウィズ・コロナにおける活動の充実を図るとともに、経営安定にも配慮する。

### 2. 特別会計(表6参照)

所定の150,000円を積み立て、1,080,000円を2023年度に繰り越す。

## 会誌委員会

来年度は会誌委員の体制が変わる予定なので、業務についてしっかりと引継ぎを行う。次号が充実した内容となるよう、昨年度に引き続き以下の目標を提案したい。

・研究企画委員会等と協力しつつ学術的水準を維持し、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、各地域の会員からの投稿を募り、多様な論考を集約する。

・今年同様2023年の日本考古学協会までに会誌を刊行する。

・旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知し協力を求める。また、これまでに投稿実績のない執筆者からの投稿も積極的に呼びかける。

## ニュースレター委員会

2022年度はニュースレター第51号、第52号、第

53号の編集・発行を行う。掲載を予定している主な内容は下表のとおり。

【第51号】2022年8月刊行予定: 寄稿記事, 2022年度 第20回大会の開催(報告), 2021年度委員会報告, 2022年度活動計画, 2022年度日本旧石器学会役員会, 2021年度日本旧石器学会賞受賞者の発表, 2022年度学会賞の推薦募集, 研究グループの募集, 『旧石器研究』投稿募集の案内, 関連学会・出版情報, お知らせ

【第52号】2022年12月刊行予定: 寄稿記事, 2021年度日本旧石器学会賞受賞者報告, 2023年度 第21回大会・研究発表・ポスターセッション発表の募集, 普及講演会の案内, 関連学会・出版情報, お知らせ

【第53号】2023年4月刊行予定: 寄稿記事, 2023年度 第21回大会・研究発表・シンポジウムの案内, 普及講演会報告, 関連学会・出版情報, お知らせ

## 渉外委員会

### 1. アジア旧石器協会 (APA) に関して

・第11回APA韓国大会(2023年8月開催予定)の1st Circularは、2022年6月ごろにAPA執行委員に通知される予定である。大会組織委員会からの通知を受け次第、会員に周知する。

・開催方式や開催場所については未定である。大会実行委員会から同大会に関する関連情報の提供を受けた際は、速やかに報告する。

### 2. 海外でのシンポジウム等の情報提供

・昨年度に続き、新型コロナ感染拡大の影響から、多くの国際学会ならびにシンポジウムが中止もしくはオンライン開催となった。この傾向は、本年度も継続することが予測されるが、関連する国際学会やシンポジウムの(オンラインを含む)開催情報については情報提供したい。

## 研究企画委員会

第20回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムを下記内容で開催する。

日程: 2022年6月4日(土)~5日(日)

会場: 名古屋大学東山キャンパス 野依記念学術交流館

シンポジウム: 「更新世末の西南日本における環境変動と人類活動」発表5本(趣旨説明除く)

一般研究発表: 口頭6本(1本20分), ポスターセッション8本

## データベース委員会

### 1. 改訂・更新作業の継続

・基本はウェブ上での協働(共同)作業で進める

表5 日本旧石器学会 2022年度一般会計予算 単位:円 ※下線が2021年度との変更点

収 入				
	2022年度 予算	【参考】2021年度 決算	【参考】2021 年度予算	摘 要
会費収入				
会費収入	1,374,000	1,348,000	1,356,000	4月1日時点会員数229人×6,000円
その他の収入				
会誌頒布代金	201,000	201,600	140,000	
シンポジウム予稿集頒布代金	234,000	10,800	21,000	最新号は紙の本による有償頒布
その他収入	0	89,400	0	
前期繰越収支差額	2,097,380	2,079,391	2,079,391	
収入計	3,906,380	3,729,191	3,596,391	
支 出				
会議費・会場設営費	108,000	122,100	134,000	オンライン会議システム使用料、 <u>総会・シンポジウム会場設営等アルバイト代・昼食代</u> 、DBワークショップ会場等使用料
旅費交通費	109,000	0	42,000	シンポジウム発表者・DBワークショップ開催委員の交通費補助
通信運搬費	93,000	122,597	35,000	会誌送料、 <u>役員引継資料送料</u> 等
消耗品費	3,000	803	3,000	事務用品等
印刷製本費	1,209,000	1,069,377	1,013,000	会誌印刷、 <u>シンポジウム予稿集印刷</u> 、ニュースレター印刷・発送
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	66,000	66,000	HP管理・メールリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	150,000	
研究グループ運営経費	0	30,000	0	
日本旧石器学会賞関連経費	68,000	36,644	36,000	賞状製作(3賞)、副賞、 <u>賞状ホルダー</u>
雑費	28,000	34,290	27,000	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費	2,072,380	2,097,380	2,030,391	
支出計	3,906,380	3,729,191	3,596,391	

(備考)年度間の繰越金を除く単年度収支

費 目	2022年度 予算	【参考】2021年度 決算	【参考】2021 年度予算
前期繰越額を除く収入	1,809,000	1,649,800	1,517,000
予備費を除く支出	1,834,000	1,631,811	1,566,000
収支差額	△ 25,000	17,989	△ 49,000

表6 日本旧石器学会 2022年度特別会計(APA日本大会開催経費積立) 予算 単位:円

収 入				
費 目	2022年度 予算	【参考】2021年度 決算	【参考】2021 年度予算	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	150,000	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	930,000	780,000	780,000	
収入計(①)	1,080,000	930,000	930,000	
支 出				
APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出計(②)	0	0	0	
次期繰越金(①-②)	1,080,000	930,000	930,000	

(できる人が、できる時に!)

- ・更新作業WSをオンライン開催し、協力者を確保し作業方法を周知する。開催地域の候補として山形県、茨城県、愛媛県などがあげられる。
- ・研究上価値のある付加情報の整備とより効果的なDB連携について検討する。引き続き奈良文化財研究所、ひなたGISとの協働を予定。

### 2. 改訂・更新版の公開

- ・作業が完了した地域から、都道府県単位での公開を予定。
- ・外部サービスの利用・連携をはかり、更新・改訂完了分からデータソースを差し替える。

### 3. 課題

- ・個人および地域研究会等の協力を得てWSを開催してきたが、その後の更新作業の進捗に必ずしもつながっていない現状がある。依然としてほぼ手つかずの地域も残る。
- ・WSの開催とともに、開催後のサポートが課題。広く協力者を得ての体制づくりが必要である。
- ・コロナ禍により、WSをオンラインで開催した。対面開催より実施回数を増やしやすというメリットがある反面、参加者のフォローに課題が残り、対面開催との併用しながら、WSのあり方について検討することとしたい。

### 入会資格審査委員会

入会申込者の資格審査を迅速に行う。会員各位においては、引き続き、積極的に入会希望者の掘り起こしと勧誘を行っていただきたい。

### 広報委員会

日本旧石器学会や旧石器時代の周知PRのために、普及講演会の開催、HPの更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

1. 普及講演会を開催し、学会や旧石器時代の周知・PRに努める。  
オンラインでの開催を予定しているが、対面での開催も視野に入れて準備・調整(1回もしくは2回)
2. 旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。  
(1)掲載遺跡が少ない北陸・東海、九州を中心に数遺跡を構想している。  
(2)「旧石器時代の教科書」についても、コンテンツの追加を検討する。
3. データベース委員会との連携  
遺跡データベース改訂に向けて取り組む。
4. HPの閲覧・ダウンロード数を分析し、HPへのア

クセスを増やすための方策を検討する。

5. 旧石器時代関連の周知に関する共催・後援・協力事業を実施する。

## 2021年度日本旧石器学会賞受賞者

2022年4月24日(日)に日本旧石器学会賞選考委員会を開催し、学会賞候補者1名、論文賞候補者1名を選考しました。それを受け、5月15日(日)に役員会において選考結果を報告し承認されました。また若手奨励賞については、2022年6月4日に学会賞選考委員会を開催して候補者1名を選考、同日役員会において選考結果を報告し、承認されました。なお、今年度は学会賞受賞者・論文賞受賞者が大会欠席のため、賞状等は受賞者に郵送いたしました。受賞者は以下のとおりです。

- ・2021年度学会賞受賞者：島田和高会員(明治大学博物館)
- ・2021年度論文賞受賞者：中村雄紀(北見市教育委員会)
- ・2022年度若手奨励賞：戸塚瞬翼(東北大学大学院)

なお、「選考理由」及び「受賞者の言葉」はニュースレター第52号にて報告します。

## 2022年度学会賞の推薦について

「日本旧石器学会賞規定」に則り、2022年度の学会賞受賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員を推薦してください。

1. 推薦内容：学会賞受賞候補
2. 推薦期間：2022年10月1日(土)～2023年2月12日(日)(必着)
3. 推薦者の資格：日本旧石器学会会員
4. 推薦方法：学会賞受賞候補の氏名、学会賞受賞候補の推薦理由、推薦者の氏名・連絡先をご記入の上、郵送もしくは電子メールにより下記の事務局あてに送付して下さい。
5. 注意事項
  - ・推薦は自薦・他薦を問いませんが、お一人につき一名を限度とします。
  - ・学会賞受賞候補は、日本旧石器学会会員に限ります。推薦にあたって、学会賞受賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。
  - ・推薦の書式は自由です。
  - ・推薦理由は概ね100字から300字にまとめてください。
6. 応募先・照会先：日本旧石器学会事務局

(担当：森先一貴・長崎潤一・鹿又喜隆)  
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1  
早稲田大学文学部 長崎潤一研究室気付  
(jim@palaeolithic.jp)

## 2022年度日本旧石器学会役員会

会長：佐藤宏之  
副会長：大竹憲昭  
総務委員会：\*森先一貴，鹿又喜隆，長崎潤一，  
渡辺丈彦  
会計委員会：\*越知睦和，大場正善，小野章太郎  
会誌委員会：\*沢田 敦，上峯篤史，中村雄紀，  
門脇誠二，三好元樹  
ニュースレター委員会：\*赤井文人，仲田大人，  
山田和史  
渉外委員会：\*出穂雅実，平澤 悠，佐野勝宏  
研究企画委員会：\*高倉 純，高屋敷飛鳥，  
青木要祐，尾田識好，亀田直美，藤田祐樹  
データベース委員会：\*熊谷亮介，沖野 実，  
野口 淳，間直一郎，小原俊行，  
堀 恭介，光石鳴巳  
入会審査委員会：\*沢田 敦，大竹憲昭  
広報委員会：\*沖野 実，神田和彦，夏木大吾  
日本旧石器学会賞選考委員：\*渡辺丈彦，佐藤宏之，  
大竹憲昭，高倉 純，森先一貴  
選挙管理委員会：\*佐藤孝雄，亀田直美，鈴木美保  
\*は委員長，\_は委嘱委員  
アジア旧石器協会：佐藤宏之（副会長），  
出穂雅実，平澤 悠（執行委員）

## 日本旧石器学会研究グループの募集

日本旧石器学会では、旧石器考古学およびこれに関連する研究課題について国内・国外の情報を交換し研究することを目的として、研究グループを設置しています。その「日本旧石器学会研究グループ規定」には自由に研究を行うことができる上、運営費を補助することも盛り込まれております。

つきましては2023年度の日本旧石器学会研究グループを募集します。研究グループの発足を希望する会員は、グループ名、代表者名、連絡先、研究目的、活動予定期間、参加者数、運営費交付希望の有無などを記入して本学会事務局に応募してください。募集期間は2023年3月31日（金）まで。応募・問い合わせ先は、日本旧石器学会事務局へ電子メールまたは郵送でお願いします

## 第48回 九州旧石器文化研究会（大分大会） 「橘昌信先生追悼研究集会」のご案内

このたび、第48回 九州旧石器文化研究会（大分大会）「橘昌信先生追悼研究集会」を、2022年11月12日（土）・13日（日）、大分県別府市の別府大学において、開催することとなりました。

橘昌信先生は本会の初代会長であり、九州における旧石器文化研究の黎明期を支えられ、地域研究の大きな発展に寄与されました。また多くの研究論文を発表され、九州の旧石器文化研究史そのものと言っても過言ではないかと考えます。5回忌を前に、先生の業績をあらためて振り返るとともに、過日の思い出話なども交えながら、次世代へと継承していきたいと思っております。

時節柄、ご多忙のこととは存じますが、お誘い合わせの上、ご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に応じ、開催形態を変更する可能性があります。

その際には下記内容について、一部変更になる場合があります。今後の変更等についてはホームページ「ハカタントロプス」でお知らせしますので、ご確認をお願いいたします。

主催 九州旧石器文化研究会

共催 別府大学アジア歴史文化研究所・史学研究会

会場 別府大学500番教室（大分県別府市北石垣82）

11月12日（土）（1日目）

13：30～14：00 受付

14：00～14：10 開会行事

14：10～14：50 基調講演

「橘昌信先生と旧石器研究」(仮) 清水 宗昭 (大分県)

14：50～15：20 基調報告1

「橘昌信先生と細石刃石器群の研究」(仮) 多田 仁 (愛媛県)

15：20～15：30 一休憩

15：30～16：00 基調報告2

「大野川流域の調査研究について」(仮) 鎌田 洋昭 (指宿市)

16：00～16：05 事務連絡

16：05 開場

情報交換会 調整中（新型コロナ感染症の状況を見ながら検討いたします）

11月13日（日）（2日目）

9：00 開場

9：30～10：00 基調報告3

「橘昌信先生と九州旧石器文化研究」(仮) 越知 睦和 (佐賀県)

10：00～10：30 基調報告4

「史跡福井洞窟について」(仮) 柳田 裕三 (佐世保市)

10：30～10：40 一休憩

10：40～11：40 座談会 司会 沖野 誠 (宮崎県)

11:40~11:50 閉会行事

※人数把握のため、事前の申し込みをお願いいたします。

※宿泊先 大学周辺及び別府駅周辺にホテル等がありますので、宿泊は各自でご手配ください。

**参加申込について**

新型コロナウイルス感染症対策として、事前の参加申込・登録を必須とします。

参加ご希望の方は、氏名、所属（特にない方は「なし」で結構です）、連絡先をベタ打ちで構いませんので記載のうえ、メールにてお申込みください。

【申込先】t35036ar@yahoo.co.jp

【締切】10月31日（木）

研究会の参加費は無料ですが、別途資料代（予稿集代）が1,500円（予定）かかります。

問合せ先 佐賀県 越知睦和（おちよしかず）

MAIL: t35036ar@yahoo.co.jp

**シンポジウム**  
**“検証：サピエンス日本列島への道”**

■趣 旨 旧石器時代の信州におけるサピエンスの足跡を最新の調査研究事例からたどるとともに、彼らの三つの渡来ルート、すなわち北海道・対馬・沖縄ルートの来歴の考古学・人類学的な検証を行う。

■日 程 2022年10月22日(土)・10月23日(日)

■場 所 10月22日(土)：いなっせ <定員70名>

<http://www.inasse.jp/index.html>

10月23日(日)：伊那市創造館（長野県）

<定員70名>

<https://goo.gl/maps/9hCnaEhFFAiJcfrE8>

■10月22日(土) 中央高地信州におけるサピエンスの足跡をたどる：最新の旧石器調査研究から(会場いなっせ)

13:00~13:40 大竹憲昭（長野県埋蔵文化財センター）

飯田市竹佐中原遺跡の性格と編年の位置付け

13:40~14:20 国武貞克（奈良文化財研究所）

佐久市香坂山遺跡の発掘調査の成果と課題

14:20~14:30 休憩

14:30~15:10 岩瀬 彬（東京都立大学）

サピエンス到来初源期の石斧を考える：野尻湖遺跡群の刃部磨製石斧

15:10~15:50 橋詰 潤（新潟県立歴史博物館）

神子柴石器群の出自にかかわる諸問題：ロシア極東地域アムール川下流域の調査成果との比較から

15:50~16:00 休憩

16:00~16:40 両角太一（長野県埋蔵文化財センター）

有樋尖頭器の形態と機能：茅野市夕立遺跡の事例を中心に

16:40~17:20 堤 隆（明治大学黒曜石研究セン

ター）・中沢祐一（北海道大学）

神子柴遺跡における破碎黒曜石の来歴

■懇親会 18:00~（シンポジウム会場周辺）

※懇親会の開催は、新型コロナウイルスの状況に鑑みて判断します。事前にお申込み下さい。

■10月23日(日) シンポジウム

「検証：サピエンス日本列島への到来」（伊那市創造館）

10:00~10:45 講演1 堤 隆（明治大学黒曜石研究センター）

検証：北海道ルート「北方系細石刃石器群の流入と神子柴系石器群生成の問題」

11:00~11:45 講演2 国武貞克（奈良文化財研究所）

検証：対馬ルート「香坂山遺跡と最古の石刃石器群の来歴」

— ランチタイム休憩 —

（堤 隆による神子柴遺跡の石器展示解説があります）

13:00~14:30 特別講演 海部陽介（東京大学総合研究博物館）

検証：沖縄ルート「3万年前の航海実験と古人骨の人類学的研究から」

14:45~15:30 パネル ディスカッション

「サピエンス日本列島へ！」

パネリスト 海部陽介・国武貞克・大竹憲昭・岩瀬彬・橋詰潤・堤 隆(ファシリテーター)

■申込 ゲーグルフォーム

(QRコード) よりどうぞ。

□参加は、先着順70名まで。

(新型コロナウイルスの影響で

日程変更・中止になる場合も

あります)



■主催 明治大学黒曜石研究センター 伊那市創造館

■共催 上伊那考古学会 長野県旧石器研究交流会  
八ヶ岳旧石器研究グループ

■後援 (株)アルカ (株)パレオ・ラボ (株)ラング

■展示 特別展示室で神子柴遺跡の石器全点(国重文)がご覧いただけます。

■宿泊 伊那市駅周辺で各自お手配下さい。

■本事業は、日本学術振興会科学研究費基盤(C)研究代表者 堤 隆「神子柴系石器群の生成とその性格をめぐる研究」(17K03216)の一環です。

■お問合せ(メールのみ) 堤 隆 tsutsumi@avis.ne.jp

■発表内容は若干変更になる場合があります。

**お知らせ**

メーリングリストの運用について

日本旧石器学会ではメーリングリストの運用を行っています。これは学会からの連絡手段として利

用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものですが、これまでその登録についてはあくまで任意のお願いというものでした。

一方、新型コロナウイルス感染拡大にともない、各種学会行事の変更などがこれまで以上に増加することが予想され、学会と会員、そして会員間でのより迅速な情報共有が喫緊の課題となっています。その解決のためには、メーリングリストの更なる有効活用と登録率の向上が必要であることから、このたび役員会での議論と了承のもと、メーリングリストへの登録を原則として義務化することにいたしました。ご理解を賜れば幸いです。

まだメーリングリストへの登録のお済みでない方は、携帯電話のメールアドレスでも構いませんので、事務局のメールアドレス (jimupalaeolithic.jp) までお知らせください。

#### 『旧石器研究』投稿募集の案内

旧石器学会会誌『旧石器研究』第19号(2023年5月発行予定)への投稿を募集しています。投稿をご希望の方は、以下の要領で会誌委員会宛(下記連絡先)にお申込みください。皆さまからの積極的なご投稿をお待ちしております。

以下、掲載原稿の種類および原稿締め切りの目安を記載しました。詳細な投稿規定と執筆要項は、会誌18号155～160頁および学会ホームページをご覧ください。

#### ■掲載原稿の内容

原稿の内容は、原則として旧石器時代、または第四紀更新世に関するもので、体裁が「執筆要項」に合致するもの。

(1) 言語：日本語または英語

(2) 原稿の種類

論文：著者自身による未発表の研究成果をまとめたもの。

総説：ある分野の研究成果を総覧し、総合的にまとめたもの。

研究ノート：試論、予察、予備的な論考。

資料報告：研究資料の紹介とその学術的な意義の報告。

翻訳：国外の優れた研究の紹介。

書評：単行本(または論文)の内容の紹介および批評。

#### ■投稿の事前連絡

投稿を予定されている方は、下記の内容を9月未までに編集委員会にE-mailでご連絡ください。それ以降のご連絡でも投稿できますが、次号の投稿予定の把握のため、ご協力をお願いいたします。

- ①原稿の種類別(論文・総説・研究ノート・資料報告・翻訳・書評より選択)
- ②執筆予定者氏名(連名の場合は責任著者を明記)
- ③原稿の表題(仮題でも可)

④連絡先(責任著者の郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス)

#### ■原稿締め切り

原稿は随時受け付けておりますが、第18号に間に合うには下記の日付までに提出くださるようお願いいたします。投稿後に査読があります。

2022年11月末日 論文・総説・研究ノート・資料報告の原稿締め切り

2022年12月末日 翻訳・書評の原稿締め切り

■申込・問い合わせ先:jpra.ec6@gmail.com(日本旧石器学会会誌編集委員会)

原稿をデータでご提出の場合は、このアドレスにメールでお送りください。CD等で提出される場合は、送付先をこのアドレスに問い合わせください。

(会誌委員会)

#### 会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されていますので、会費は原則前納制としております。ニュースレター前号同封の払込取扱票を用いて、今年度分会費の納入をお願いします。振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。全国の郵便局で簡単に手続きいただけます。これまでもお知らせしておりますとおり、2018年度より年会費が6,000円になりました。御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

また、会費滞納は本会運営に大きな支障を招く原因になりますので、前号同封の会費納入状況を御確認のうえ、2022年度以前の会費を未納の方は、未納分もあわせて納入をお願いいたします。

転居をされた方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、本会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載いただくか、または事務局までメール等で御連絡ください。

#### 日本旧石器学会入会申込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロード(<http://palaeolithic.jp/join.htm>)し、必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送してください。入会資格審査にあたっては論文等著作物の提出を求める場合があります。ご協力ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第51号

2022年8月28日発行

編集:日本旧石器学会ニュースレター委員会

赤井文人・仲田大人・山田和史

発行:日本旧石器学会

事務局:〒162-8644

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 長崎潤一研究室気付

E-mail: jimupalaeolithic.jp

HP: <http://palaeolithic.jp/index.htm>